

通勤時間で合格！中小企業診断士

～ 科目別対策のポイント2：財務・会計 ～

KIYOラーニング

綾部 貴淑

2009年01月17日



プログラム

1. 中小企業診断士短期合格のポイント

- どうやったら短期間で合格できるのか？
- 学習戦略のポイント
- 学習法と学習ツールのポイント

2. 財務・会計の特徴と学習方法

- 試験の傾向と特徴
- 最適な学習方法とは

3. 財務・会計のポイント解説

- アカウンティング
- ファイナンス

4. プレゼントのご案内

ごあいさつ

- 綾部 貴淑



- 経歴

- 日本オラクル：前職
- I A F コンサルティング：現職
- K I Y O ラーニング：現職

- 中小企業診断士との関わり

- 一昨年 中小企業診断士 取得
- 昨年から「中小企業診断士 通勤講座」を運営

<http://manabiz.jp>



- セミナー資料アーカイブ

- 中小企業診断士～経営を語るエンジニアになろう～
- 科目別対策のポイント1：企業経営理論

<http://manabiz.jp/learning.html>

1 . 中小企業診断士短期合格のポイント

どうやったら短期間で合格できるのか？

学習戦略のポイント

学習法と学習ツールのポイント

中小企業診断士試験の流れ

1次試験（選択式：7科目）

毎年 8月

A経済学・経済政策 B財務・会計 C企業経営理論 D運営管理 E経営法務 F経営情報システム
G中小企業経営・中小企業政策

6割以上正解すると合格

2次試験（記述式：4科目）

毎年 10月

診断及び助言に関する実務の事例
1 組織(人事を含む) 2 マーケティング・流通 3 生産・技術 4 財務・会計

6割以上正解すると合格

第2次 口述試験（面接試験）

毎年 12月

ほぼ全員が合格します。

問題がなければ合格

実務補習（実習）

毎年 2月、8月から計15日間選択

通常は実習が終了すれば中小企業診断士として登録できます。

終了

中小企業診断士 登録！

1 次試験の特徴

● 科目と配点

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. 経済学・経済政策 | (6 0 分 : 1 0 0 点) |
| 2. 財務・会計 | (6 0 分 : 1 0 0 点) |
| 3. 企業経営理論 | (9 0 分 : 1 0 0 点) |
| 4. 運営管理 | (9 0 分 : 1 0 0 点) |
| 5. 経営法務 | (6 0 分 : 1 0 0 点) |
| 6. 経営情報システム | (6 0 分 : 1 0 0 点) |
| 7. 中小企業経営・中小企業政策 | (9 0 分 : 1 0 0 点) |

合格するには総得点の60%以上で、かつ1科目でも40点未満が無いことが条件

→ 平均60点以上で、苦手科目でも40点以上であれば合格 (科目合格制度もあり)

● 試験問題：選択式

平成18年 1次試験：運営管理

第2問

工程管理における生産統制の主な活動として、最も不適切なものはどれか。

ア 原価管理 イ 現品管理 ウ 進捗管理 エ 余力管理

2次試験の特徴

● 科目と配点

- | | |
|------------------|--------------|
| 1. 組織(人事を含む)の事例 | (80分 : 100点) |
| 2. マーケティング・流通の事例 | (80分 : 100点) |
| 3. 生産・技術の事例 | (80分 : 100点) |
| 4. 財務・会計の事例 | (80分 : 100点) |

合格するには総得点の60%以上で、かつ1科目でも40点未満が無いことが条件

→ 平均60点以上で、苦手科目でも40点以上であれば合格

● 試験問題：記述式

平成18年2次試験：事例

与件文

A社は、資本金9000万円で、年間売上高約200億円の中堅商社である。従業員数は100名程度であり、その中には、契約社員、派遣社員が含まれている。A社の主たる取扱商品は化学品であり、一言でいうと「化学品の専門商社」ということができるが、油脂・油剤から合成樹脂、電子材料などのファインケミカル品など幅広い化学製品を扱っている。（この後文章が続くが省略）

第1問（配点30点）

中堅化学メーカーの子会社であるA社にとって、子会社であることの強みとして、どのような点を考えることができるか。また、その弱みとして、どのような点を考えることができるか。強みを(a)欄に、弱みを(b)欄に、それぞれ100次以内で述べよ。

どうやったら短期間で合格できるのか？

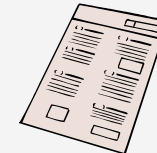
経営全般を診断・助言 → 非常に範囲が広い

要点を押さえた効率的な学習を継続する

試験を知り、短期間で合格できる**学習戦略**を立てる



2次試験を意識した学習をする



効率的な**学習方法**・**学習ツール**を使う



ムリなく**継続**する



学習戦略のポイント

- 中小企業診断士合格には**深い知識は必要ない**
 - 広い知識が必要
 - 深い知識は必要ない → **60点でOK**
- 重要分野に**しぼる** → 「**時間 対 効果**」を最大に

出題される分野

A : 基本的な知識（幹となる部分）・・・60点
+ 過去の試験に頻繁に出題されている知識
+ 2次試験でも必要となる知識

ここに
注力

B : 発展的な知識（枝の部分）・・・30点
+ 過去の試験に何回か出題されている知識

ここには
まらない
ように

C : 高度で専門的な知識（葉の部分）・・・10点
+ 過去の試験であまり出題されていない知識

→ **幹となる知識を整理して記憶する**

2次試験を意識した学習をする

- 1次試験と2次試験の合格率は共に2割ぐらい
 - 同じぐらいの難易度？

● 1次試験

- 科目合格だけが目標の人もある
- 知識量を増やせば得点があがる
- 選択式なので記述スキルが必要ない

● 2次試験

- 1次に通った人だけが受験する
- 知識量を増やしても得点があがらない
- 筆記式なので記述スキルが必要

真の試験は2次試験
→ 2次試験に照準をあわせる

そのためには？

2次に関連が深い分野を
優先する

2次に「使える」形で知識を
整理しておく




2次に関連が深い分野を優先する

1次試験と2次試験の関連		2次試験科目			
		組織 (人事を含む)	マーケティング・流通	生産・技術	財務・会計
1次試験科目	企業経営理論	経営戦略論			
		組織論			
		マーケティング論			
	財務・会計				
	運営管理	生産管理			
		販売管理			
	経営情報システム				
	中小企業経営・中小企業政策				
経済学・経済政策					
経営法務					

2次に関連が深い
→整理・理解が
重要

2次に少し
関連する

1次のみ

	特に関連が深い
	関連がある
	やや関連がある

効率的な学習方法・学習ツールを使う

今までの学習法・学習ツールの問題点

- サブノートを作る
- カードを作って暗記する

- テキストに蛍光ペンで線を引いたり、書き込みをする

しかし、問題点も

作成に時間がかかる
作って満足してしまいがち

記憶に残りにくい
知識が整理されない

学習のポイント

→ 幹となる知識を整理して記憶する

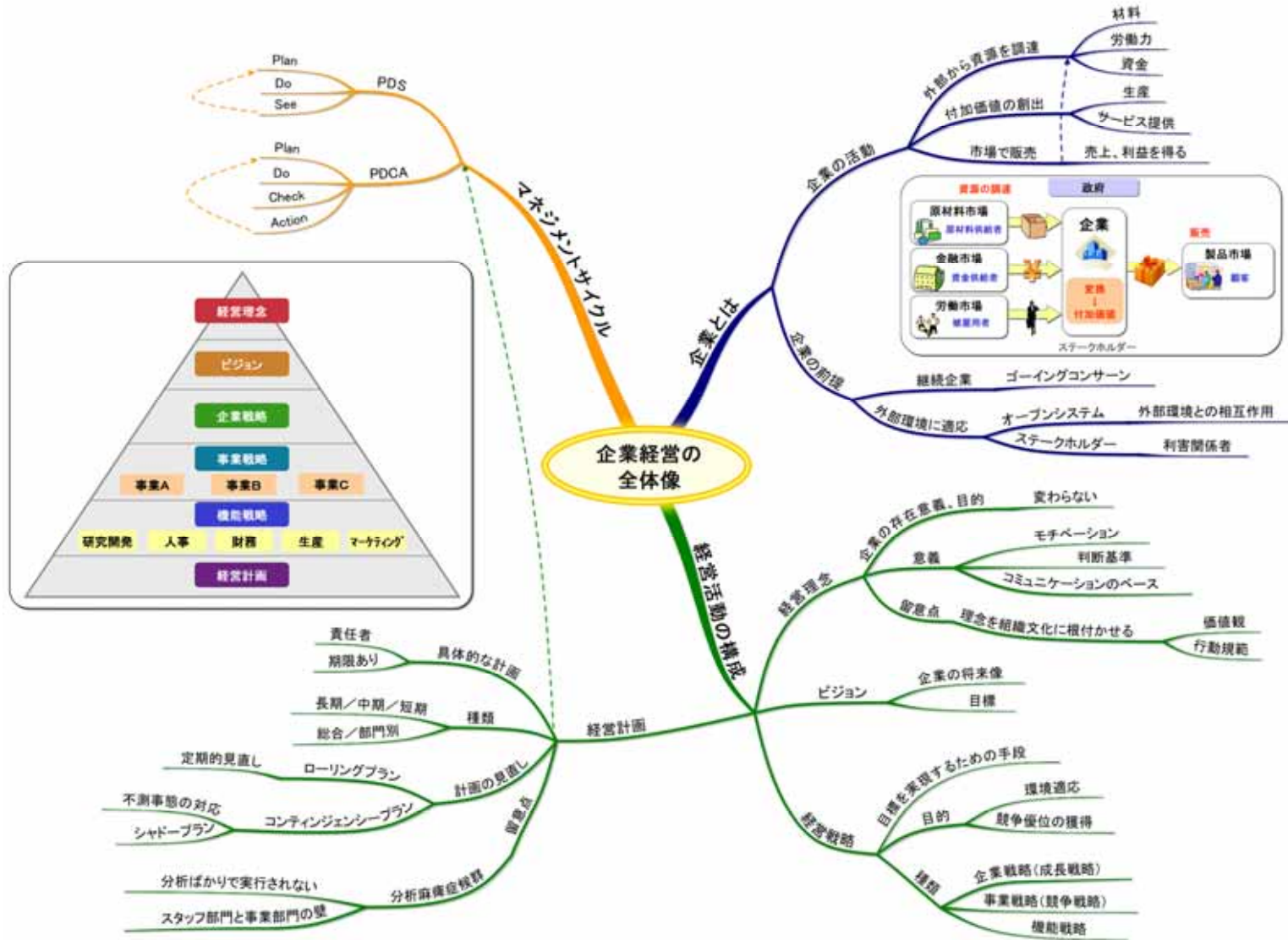
→ 2次に使える知識に整理しておく

→ 学習ツールを絞る

学習マップによる
学習法が効率的



学習マップとは？



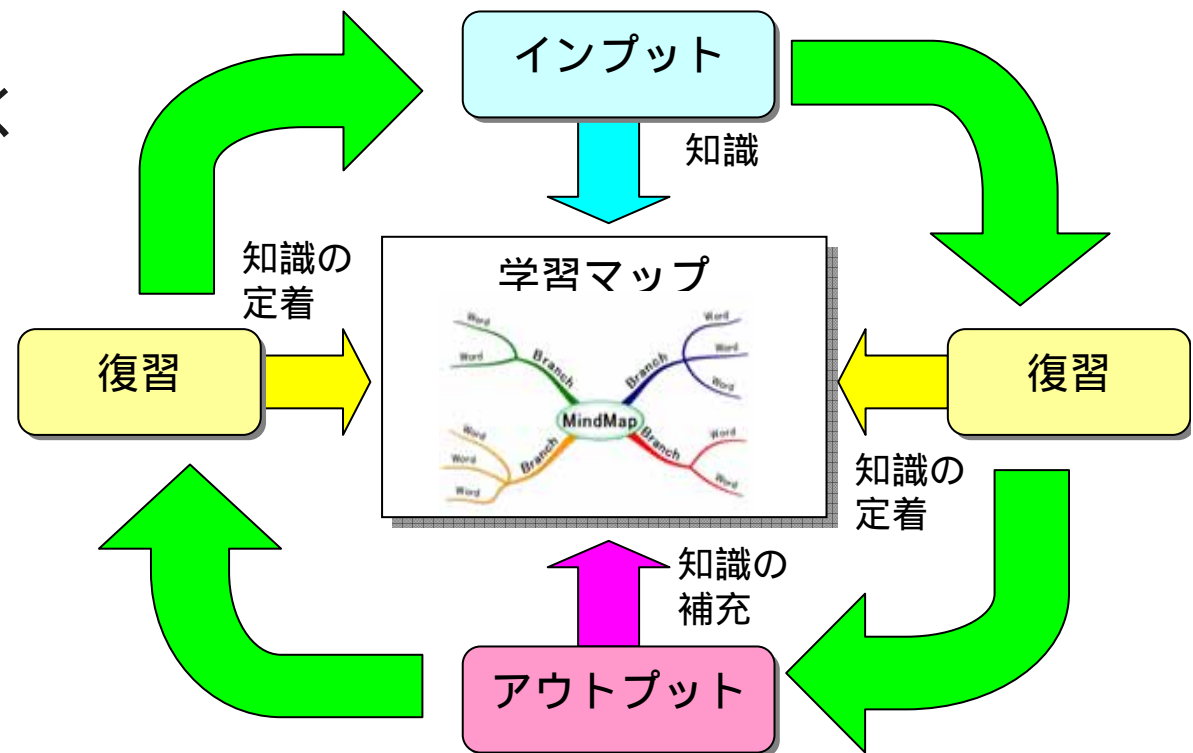
学習マップによる学習法

1. 基礎知識の定着

- インプット：テキストや講座など
→ 学習マップに整理
- 学習マップで繰り返し復習（記憶フラッシュ）

2. 問題解答力の育成

- 過去問、問題集を解く
→ 学習マップに追加
- 学習マップで
繰り返し復習
（記憶フラッシュ）



学習マップのメリット

- 作成するのに時間がかからない。
- 知識が体系的に整理でき、2次試験にも役立つ。
- キーワードが絞り込まれており、圧倒的に短い時間で復習できる。
- 過去問や問題集で得た知識を、後で追加することができる。

2 . 財務・会計の特徴と学習方法

試験の傾向と特徴
最適な学習方法とは

科目の特徴と基本戦略 【財務・会計】

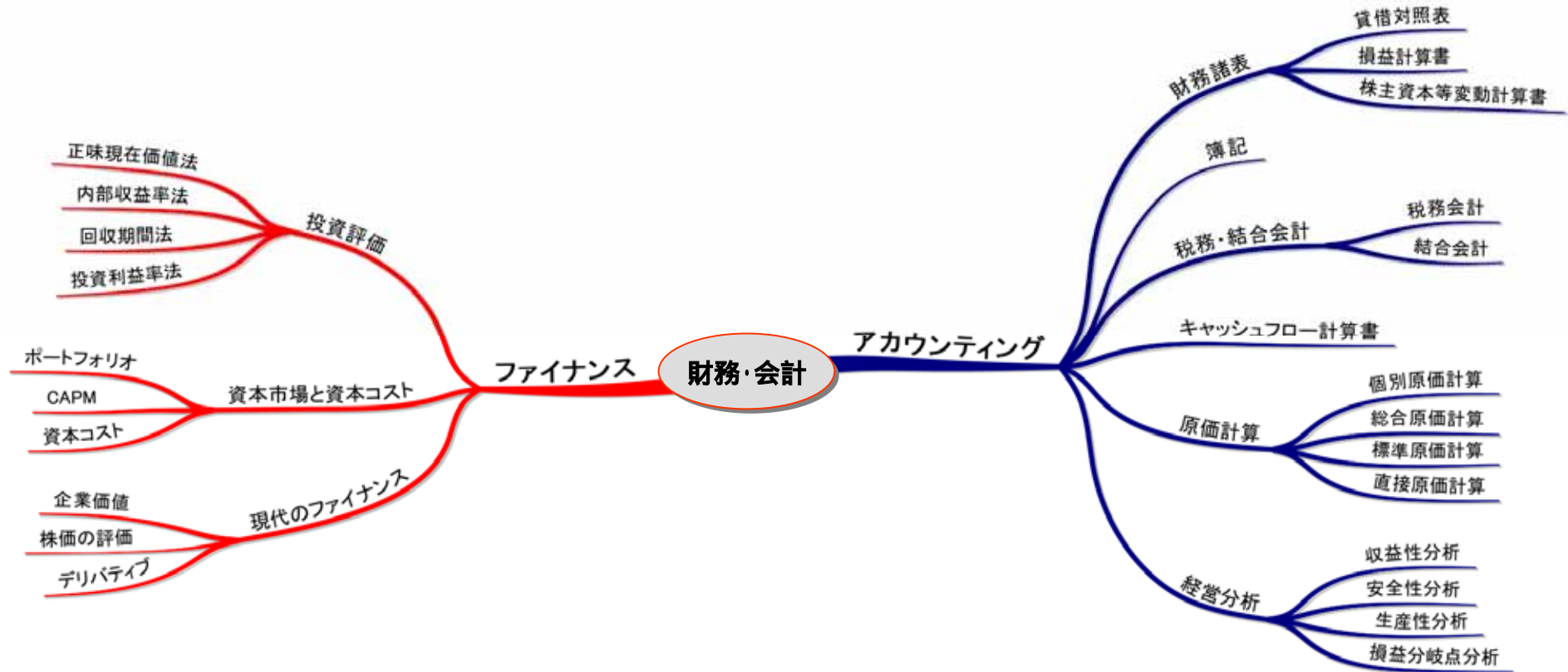
● 科目の特徴

- 経営資源として重要な「資金」に関する内容。経営コンサルティングでも、経営を数字で診断するスキルは必須のため、重要科目と位置付けられる。
- アカウンティング（会計）とファイナンス（財務）を含む。
- 1次試験、2次試験(事例4)共に計算問題が解ける必要がある。
 - 1次は電卓持込不可。2次は電卓持込可。

● 学習の基本戦略

- 基礎から順番にマスターする。
 - 財務諸表や簿記が基礎となる。
- 計算問題を練習する。
 - 計算問題の出題範囲は限られているため、練習して時間内に解答できるようにする。
- 過去問の形式に早く慣れる。
 - 近年は、理解を問う問題が増えている。
- 1次、2次共にポイントとなる科目のため、苦手科目にしないようにする。
 - 練習すれば、基本問題は必ず解けるようになる。

学習範囲全体マップ



主な学習項目

- アカウンティング

- 1 . 財務諸表

- 貸借対照表
- 損益計算書
- 株主資本等変動計算書

- 2 . 簿記

- 3 . 税務・結合会計

- 税務会計
- 結合会計

- 4 . キャッシュフロー計算書

- 4 . 原価計算

- 個別原価計算
- 総合原価計算
- 標準原価計算
- 直接原価計算

- 5 . 経営分析

- 収益性分析
- 安全性分析
- 生産性分析
- 損益分岐点分析

主な学習項目

- ファイナンス
 - 7 . 投資評価
 - 正味現在価値法
 - 内部収益率法
 - 回収期間法
 - 投資利益率法
 - 8 . 資本市場と資本コスト
 - ポートフォリオ
 - CAPM
 - 資本コスト
 - 9 . 現代のファイナンス
 - 企業価値
 - 株価の評価
 - デリバティブ

試験の傾向と対策

- **アカウンティング**

- **出題されやすい分野**

- 経営分析
 - 特に収益性分析（回転率含む）、安全性分析、損益分岐点分析など
 - キャッシュフロー計算書
 - 特に営業CF（間接法、直接法）など
 - 原価計算
 - 特に総合原価計算、標準原価計算など
 - 簿記・財務諸表
 - 特に基本的な仕訳、精算表の穴埋め問題など

- **試験傾向**

- 計算結果ではなく、計算式を選択する問題も増えている。
 - より理解力が問われるようになってきている。

- **学習方法**

- 簿記の基本を理解してから、発展的な内容を学んだ方が学習しやすい。
 - 出題が多い分野については、確実に計算が出来るように練習する。
 - 2次でも、経営分析（損益分岐点分析含む）、キャッシュフロー計算書は頻出のため、得意分野にしておくが良い。

試験の傾向と対策

- **ファイナンス**
 - **出題されやすい分野**
 - 投資の評価
 - 特に、正味現在価値法、回収期間法などの投資評価、フリーキャッシュフローなど
 - 資本コスト
 - 特に、CAPMやWACCによる資本コストの計算
 - 株価の評価指標
 - 特に、PER、PBR、配当性向など
 - **試験傾向**
 - 計算結果ではなく、計算式を選択する問題も増えている。
 - より理解力が問われるようになってきている。
 - **学習方法**
 - 投資評価では、現在価値の概念を理解する。
 - 資本コストは、最低限CAPM、WACCの計算ができるように。できれば、計算の背景を理解しておく。
 - 株価の指標は、基本的な問題が多いので得点源にしたい。
 - 2次は、設備投資評価が重要。投資の判断まで含めてできるようにしておく。

重要ランカー一覧

A: 重要度高い
B: 通常
C: 重要度低い

テーマ	項目	1次	2次
財務諸表	貸借対照表	A	B
	損益計算書	A	B
	株主資本等変動計算書	A	B
簿記		A	B
税務・結合会計	税務会計	B	C
	結合会計	C	C
キャッシュフロー計算書		A	A
原価計算	個別原価計算	B	B
	総合原価計算	A	B
	標準原価計算	A	B
	直接原価計算	B	B
経営分析	収益性分析	A	A
	安全性分析	A	A
	生産性分析	B	B
	損益分岐点分析	A	A
投資評価	正味現在価値法	A	A
	内部収益率法	B	B
	回収期間法	A	A
	投資利益率法	B	B
資本市場と資本コスト	ポートフォリオ	A	B
	CAPM	A	B
	資本コスト	A	B
現代のファイナンス	企業価値	B	B
	株価の評価	A	B
	デリバティブ	B	B

重要ランクは、過去数年間の出題傾向をもとにしていますが、毎年の出題分野は変わる可能性もありますので、参考程度としてください。

- 平成20年度1次試験問題

<http://manabiz.jp/backnumber.html>

3 . 財務・会計のポイント解説

アカウントティング
ファイナンス

財務諸表 ~ 経営の実態を記録・報告

貸借対照表

・期末時点の財政状態

資産	負債
	資本 (純資産)

株主資本等変動計算書

・一定期間の株主資本の変動

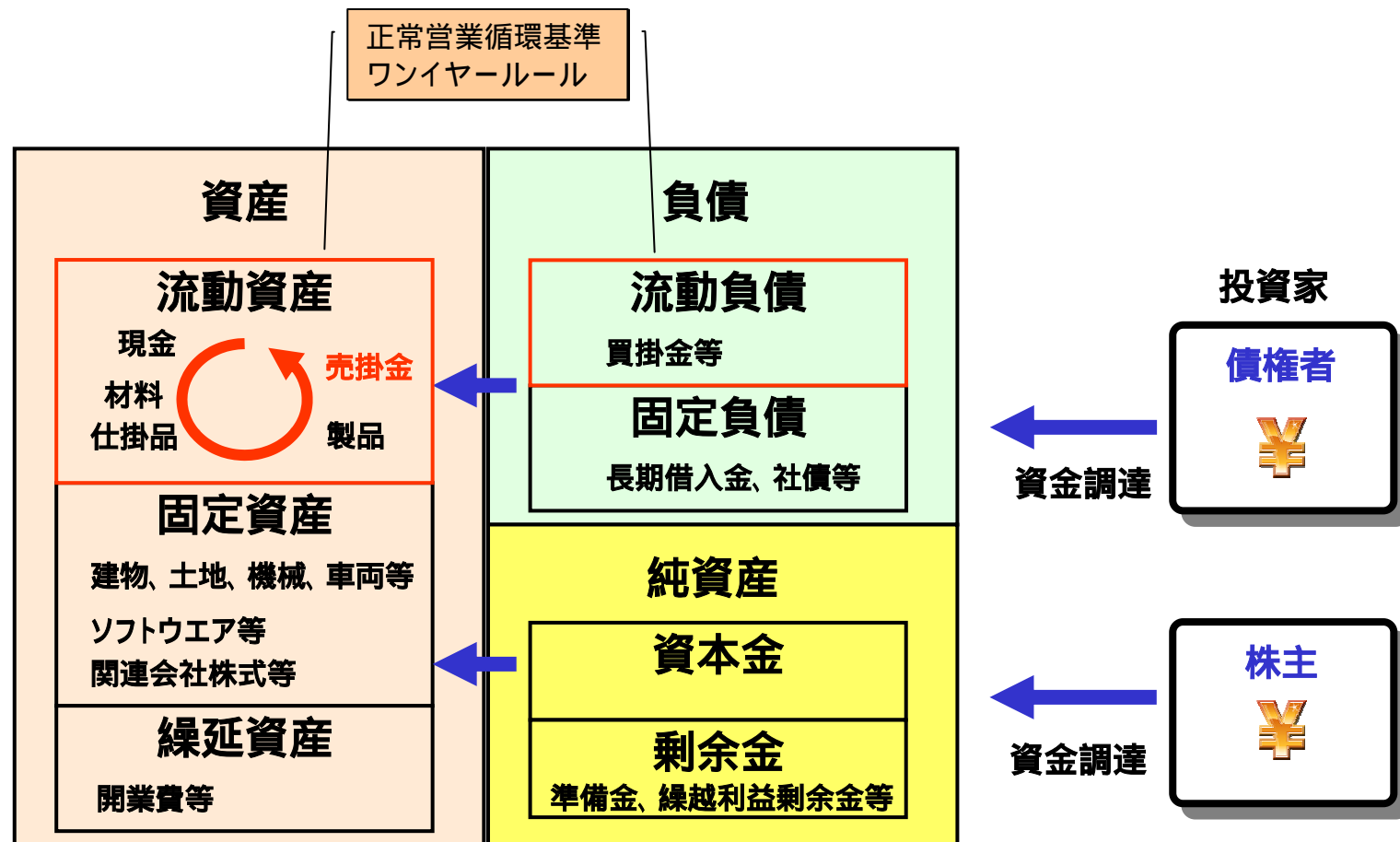
資本の減少	期首資本
期末資本	資本の増加
	利益

利益	収益
費用	

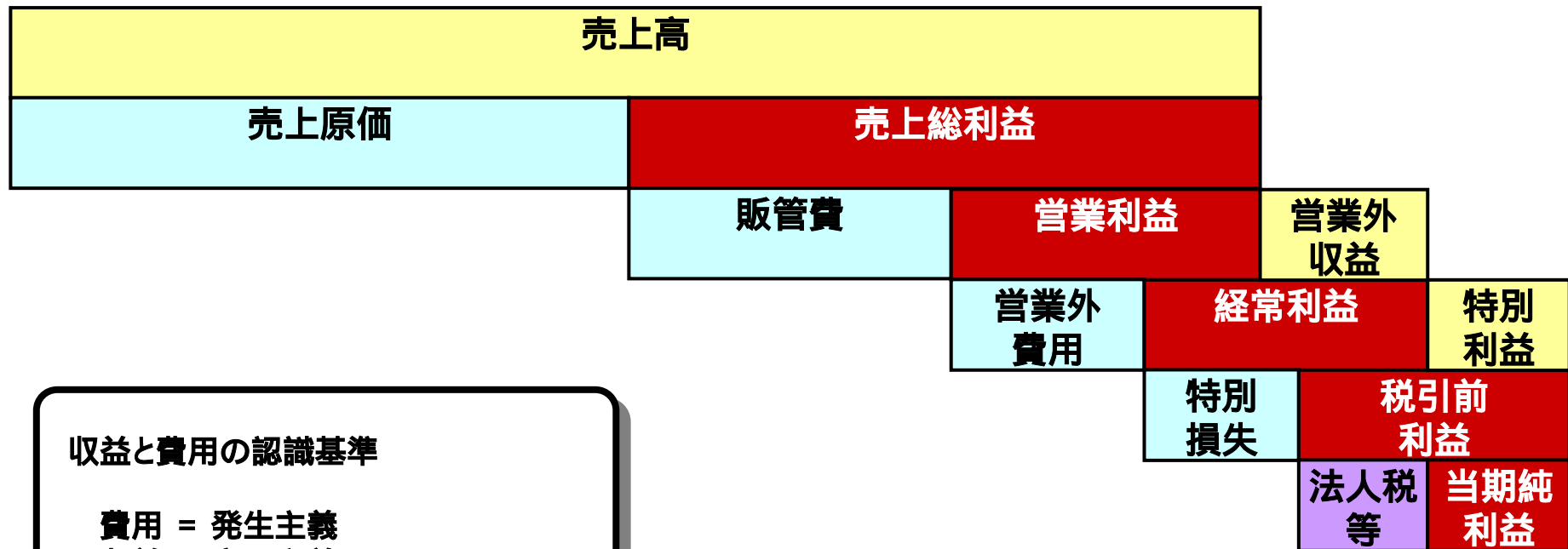
損益計算書

・一定期間の経営成績

貸借対照表 ~ 資金の調達と運用



損益計算書 ~ 経営成績



収益と費用の認識基準

費用 = 発生主義
 収益 = 実現主義

キャッシュフロー計算書は現金主義

株主資本等変動計算書 ~ 株主資本の変動

株主資本等変動計算書
平成18年4月1日～平成19年3月31日

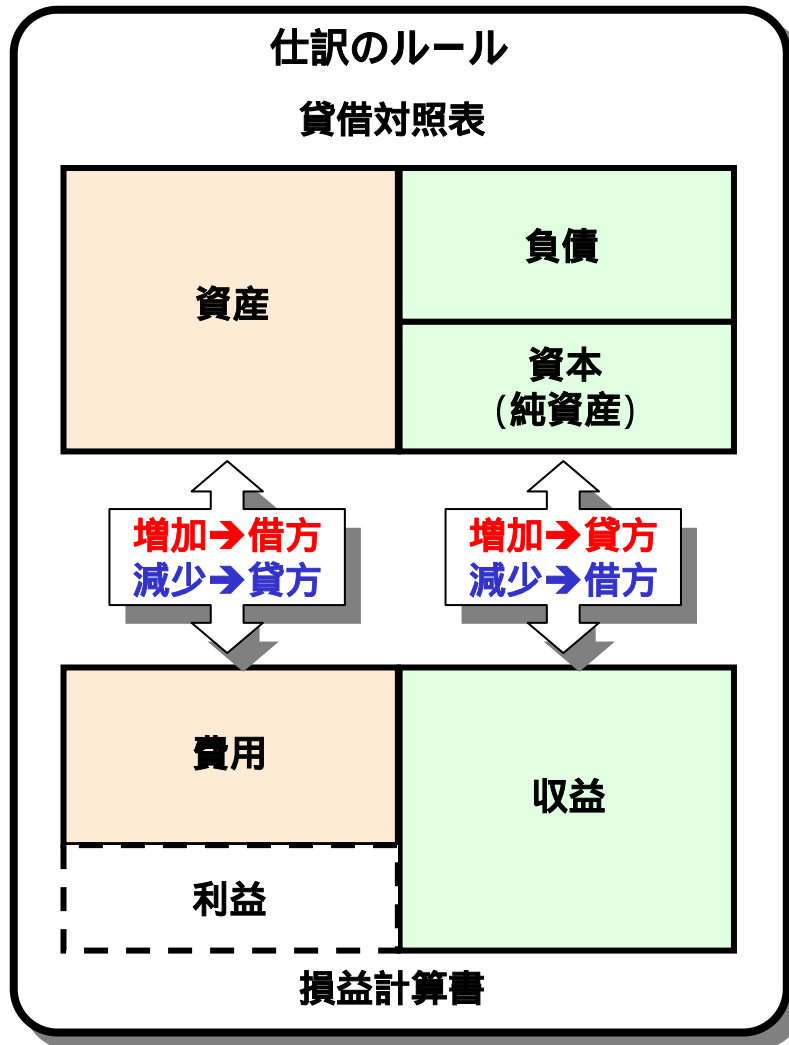
(単位:百万円)

	株主資本										評価 換算 差額等	新株 予約権	純資産 合計
	資本金	資本剰余金			利益 準備金	利益剰余金			自己株式	株主資本 合計			
		資本 準備金	その他 資本 剰余金	資本 剰余金 合計		任意 積立金	繰越利益 剰余金	利益 剰余金 合計					
前期末残高	90	5	5	10	6	3	8	7	△ 2	115	0	0	115
当期変動額													
新株の発行	10	0		10						20			20
剰余金の配当							△ 5	△ 5		△ 5			△ 5
剰余金の配当による 利益準備金積立					1		△ 1	0		0			0
当期純利益							3	3		3			3
自己株式の処分									1	1			1
株主資本以外の 項目の当期変動額											-	1	1
当期変動額合計	10	0	-	10	1	-	△ 3	△ 2	1	19	-	1	20
当期末残高	100	150	5	20	7	3	5	5	△ 1	134	0	1	135

ポイント

- ・新株発行時の資本準備金組み入れ
払い込み額の1/2まで資本準備金に組み入れ可能
- ・配当時の準備金積み立て
配当額の1/10を準備金に積み立てる必要あり
ただし、準備金の合計額が、資本金の1/4を超えていれば必要なし

仕訳 ~ 取引を記録

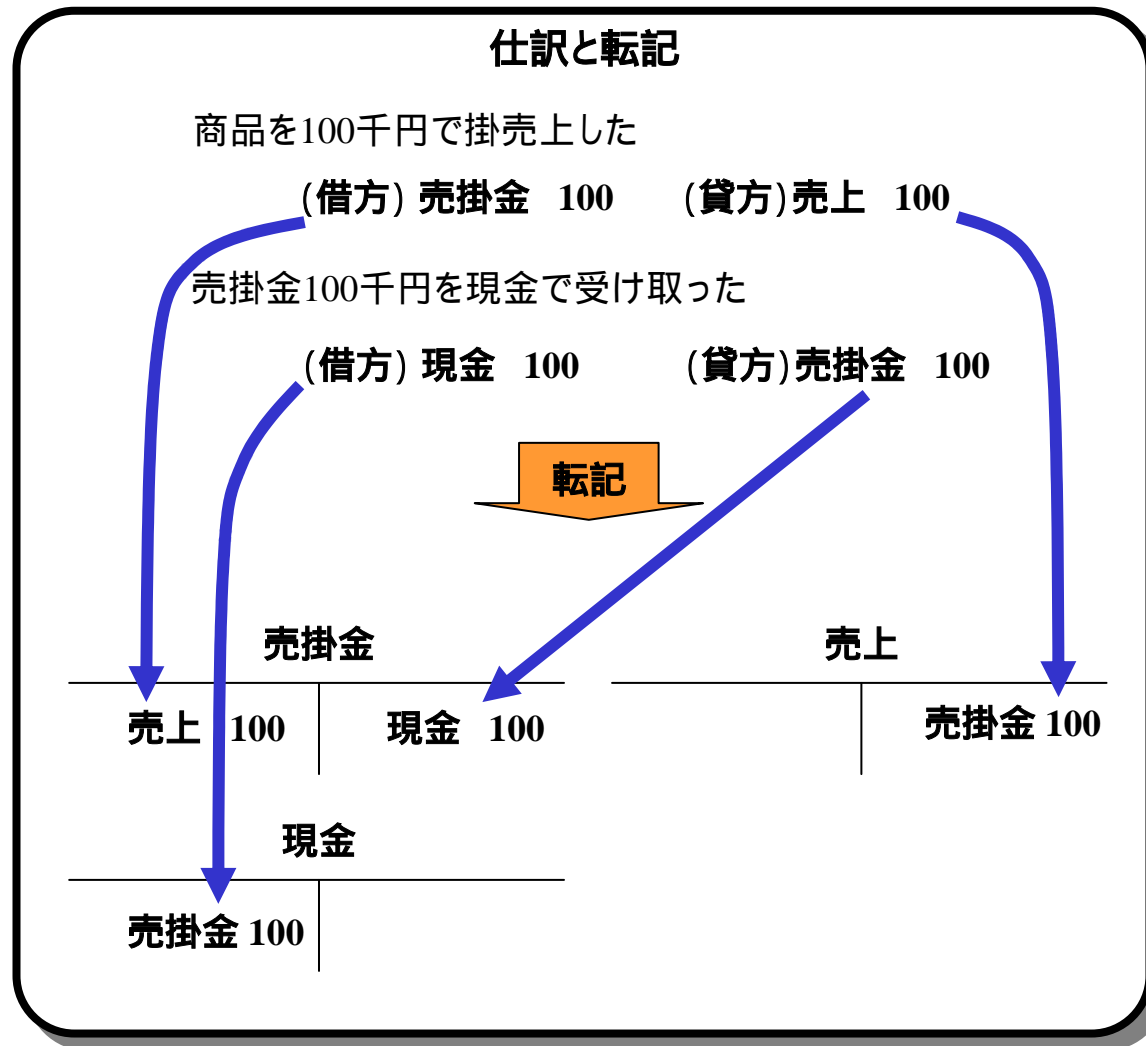


例)

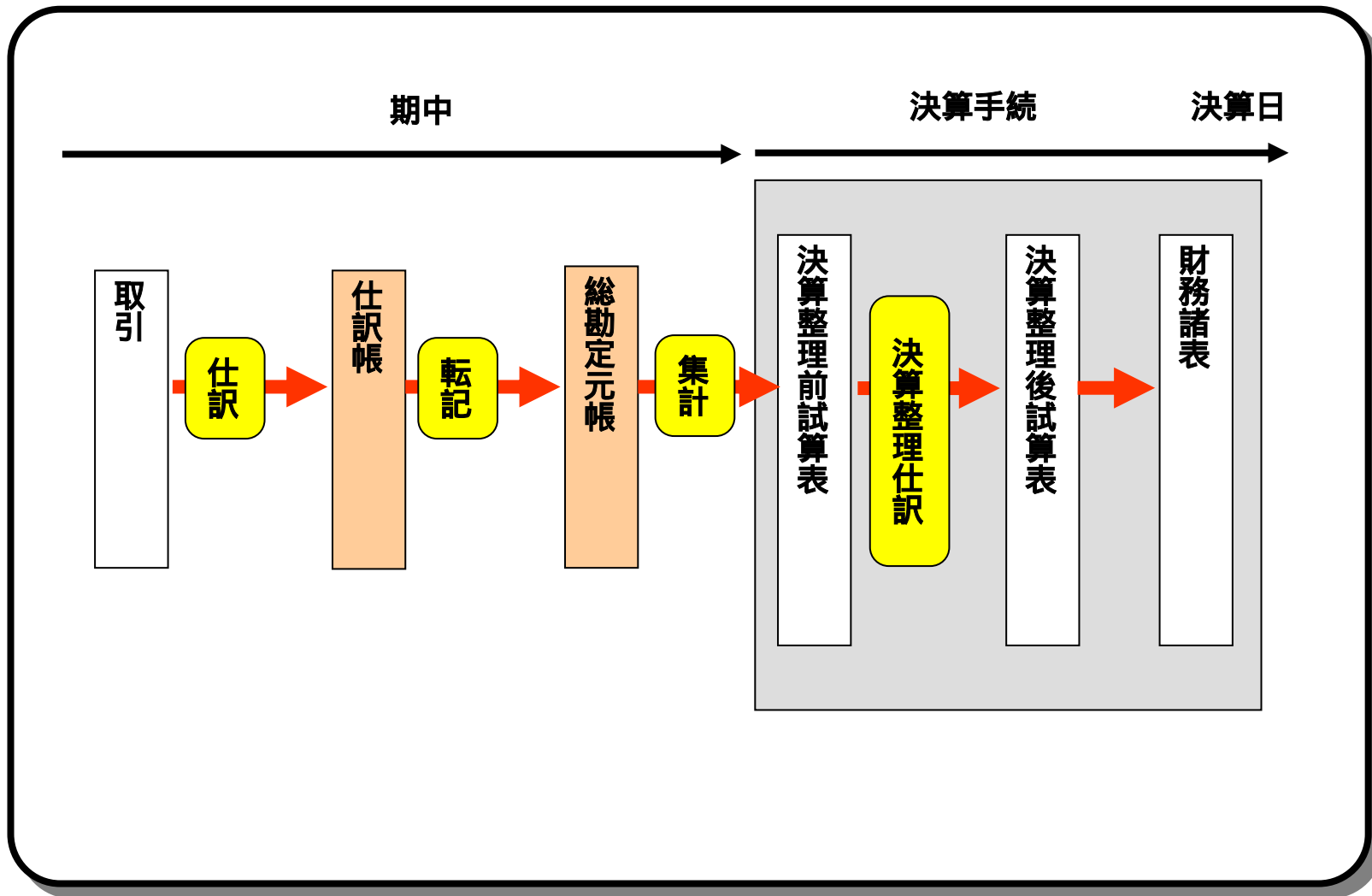
売掛金 100 / 売上 100
資産 収益

現金 100 / 売掛金 100
資産 資産

仕訳と転記 ~ 勘定科目別に集計



簿記一巡 ~ 期中取引 → 期末財務諸表の流れ



精算表 ~ 決算手続きの一覧表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金預金	650						650	
受取手形	360						360	
売掛金	240						240	
有価証券	900			80			820	
現金過不足	2			2			0	
在庫品	1,200						1,200	
備品	800						800	
土地	3,000						3,000	
支払手形		210						210
買掛金		320						320
短期借入金		700						700
社債		300						300
未払金		200						200
資本		5,000						5,000
売上		20,600				20,600		
仕入	5,000		600	400	5,200			
給料	12,000				12,000			
水道光熱費	600				600			
旅交通費	90				90			
通信費	500				500			
広告宣伝費	700				700			
支払家賃	6,000				6,000			
支払利息	60		10		70			
受取利息		2,040		560		2,600		
有価証券売却益		1,500				1,500		
仕入割引		1,260				1,260		
雑収入		572				572		
繰越商品	600		400	600			400	
	32,702	32,702						
未収利息			560				560	
貸倒引当金				45				45
減価却累計額				400				400
未払利息				10				10
減価却費			400		400			
貸倒引当金繰入			45		45			
有価証券評価損			80		80			
雑損			2		2			
当期純利益					845			845
			2,097	2,097	26,532	26,532	8,030	8,030

法人税 ~ 利益ではなく所得を基に計算

所得額の計算

$$\begin{aligned} \text{所得} &= \text{益金} - \text{損金} \\ &\quad (\text{益金} \quad \text{収益}) \\ &\quad (\text{損金} \quad \text{費用}) \end{aligned}$$

別表四

摘要		金額
当期純利益		6,000
加算	売上高計上もれ	500
	交際費の損金不算入額	250
	小計	750
減算	受取配当金の益金不算入額	150
	減価償却費の当期容認額	100
	小計	250
所得金額		6,500

税効果会計 ~ 税務と会計の調整(一時差異のみ)

一時差異

- 将来、税務と会計のズレは解消
- ・将来減算一時差異
将来の所得を減算(繰延税金資産)
例: 減価償却費の償却超過額
 - ・将来加算一時差異
将来の所得を加算(繰延税金負債)

永久差異

- 将来、税務と会計のズレは解消されない
- 例: 交際費、寄付金、受取配当金

税効果会計

< 税効果会計未適用 >

諸収益	10,000
諸費用	6,000
貸倒引当金繰入額	2,000
税引前当期純利益	2,000
法人税等	1,200
当期純利益	800

< 税効果会計適用 >

諸収益	10,000
諸費用	6,000
貸倒引当金繰入額	2,000
税引前当期純利益	2,000
法人税等	1,200
法人税等調整額	△ 400
当期純利益	1,200

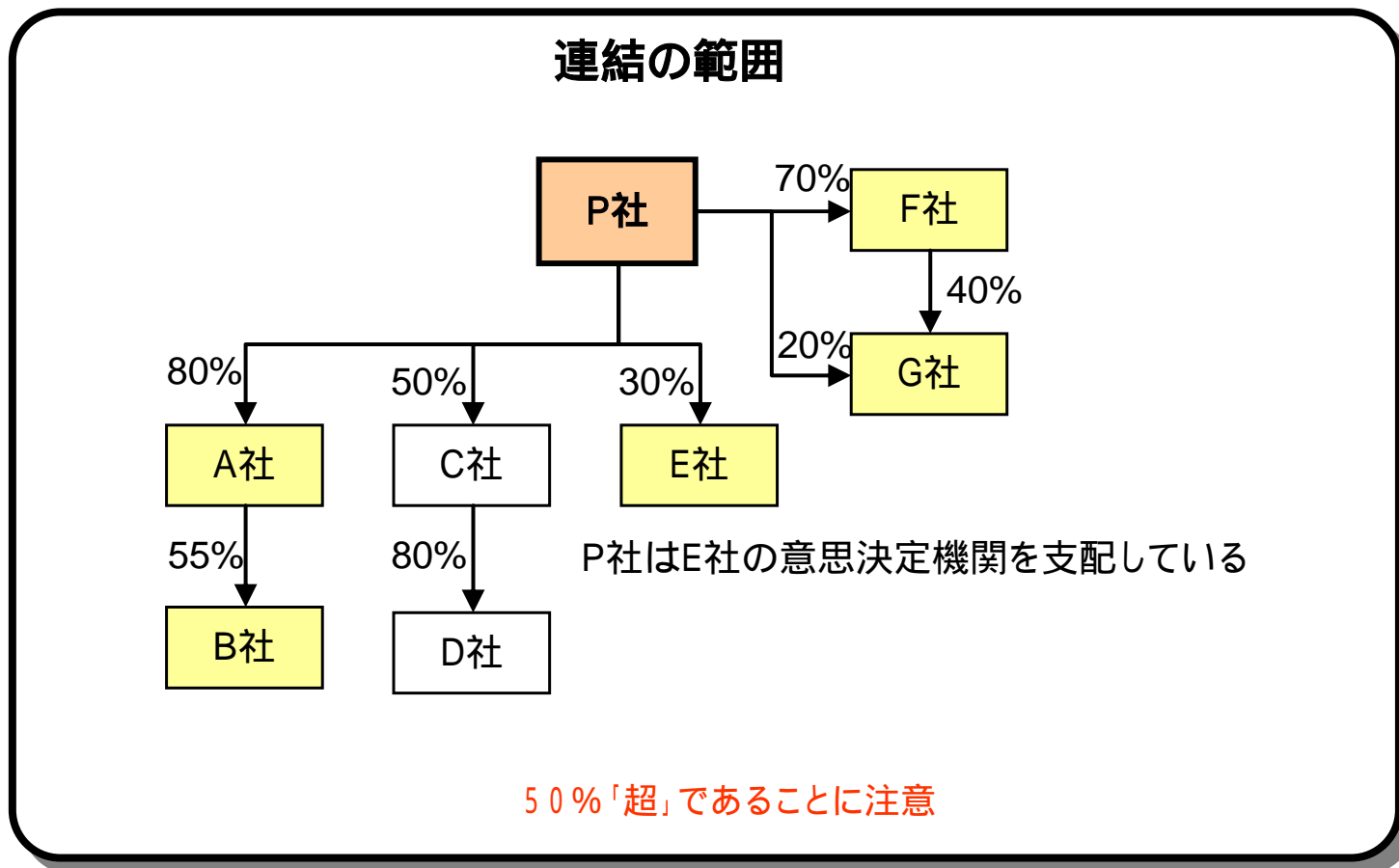
B / S

繰延税金資産 400

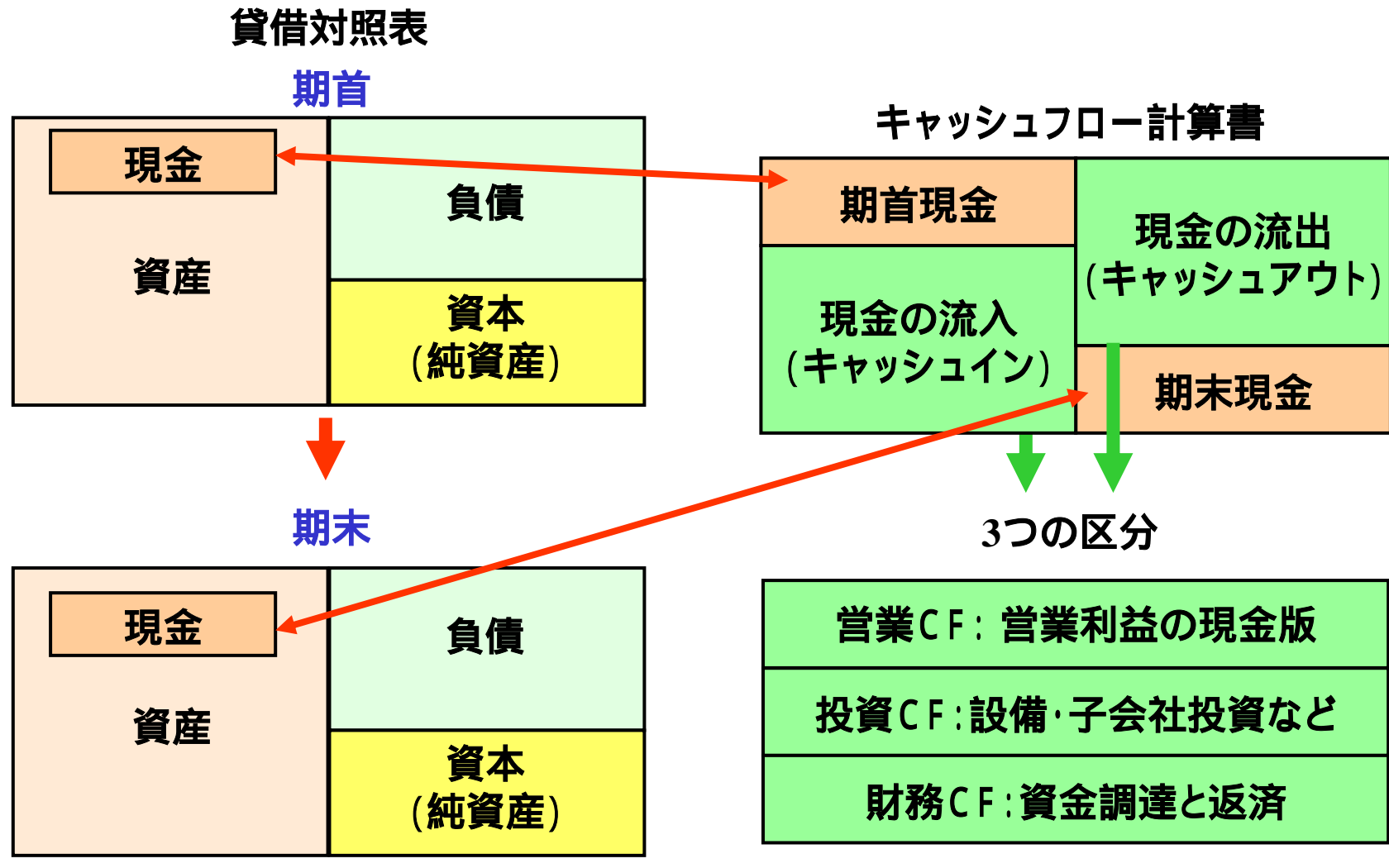
貸倒引当金の損益不算入額(1000)に
実効税率(40%)を掛けた税効果(400)を
法人税から減額調整

実効税率(40%)で計算した
当期純利益が表示される

連結会計 ~ 連結の範囲は支配力基準



キャッシュフロー計算書 ~ キャッシュの増減



キャッシュフロー計算書 ~ 間接法 / 直接法

税引後利益
からスタート

小計以降は
同じ

【間接法】キャッシュフロー計算書

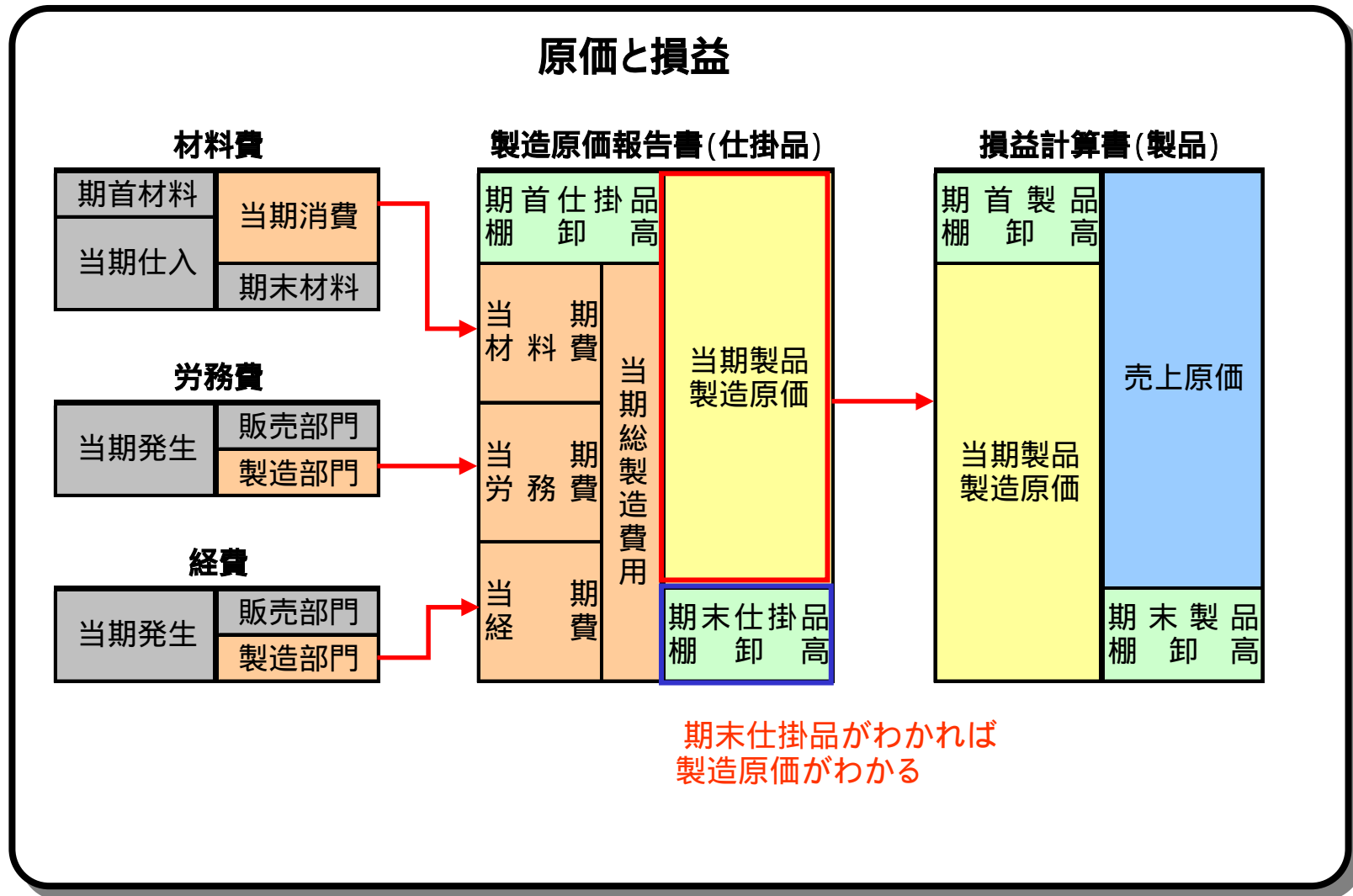
I. 営業活動によるキャッシュフロー	
税引前当期純利益	700
減価償却費	100
貸倒引当金の増加額	10
受取利息及び受取配当金	-20
支払利息	30
売上債権の増加額	-100
棚卸資産の減少額	100
仕入債務の減少額	-50
前払費用の増加額	-10
小計	760
利息及び配当金の受取額	30
利息の支払額	-40
法人税等の支払額	-250
営業活動によるキャッシュフロー	600
II. 投資活動によるキャッシュフロー	
有形固定資産の取得による支出	-400
長期貸付金の回収による収入	100
投資活動によるキャッシュフロー	-300
III. 財務活動によるキャッシュフロー	
長期借入れの返済による支出	-100
株式の発行による収入	400
配当金の支払額	-250
財務活動によるキャッシュフロー	50
IV. 現金及び現金同等物の増加額	250
V. 現金及び現金同等物の期首残高	690
VI. 現金及び現金同等物の期末残高	940

【直接法】キャッシュフロー計算書

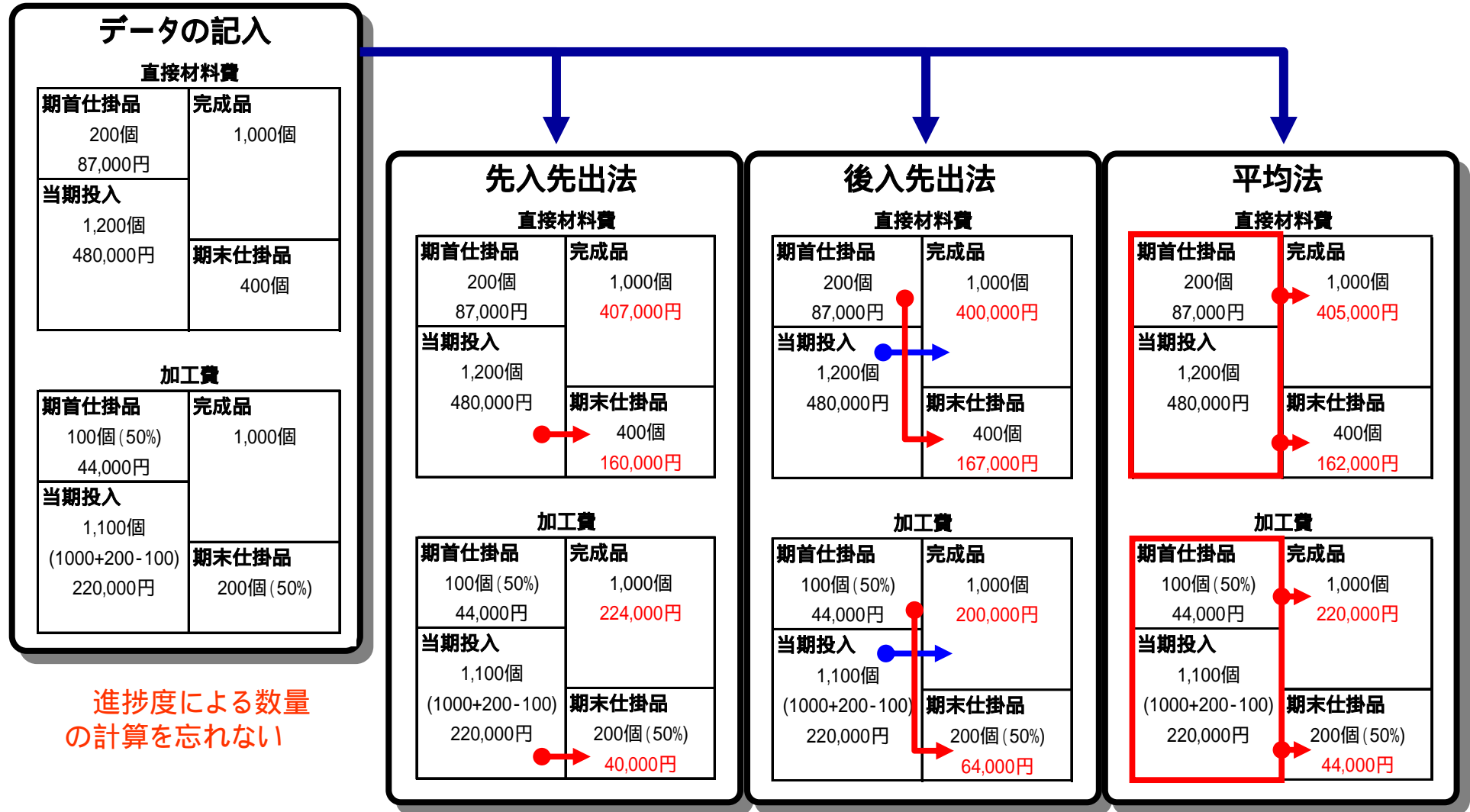
I. 営業活動によるキャッシュフロー	
営業収入	3,300
原材料又は商品の仕入支出	-2,150
人件費支出	-250
その他の営業支出	-140
小計	760
利息及び配当金の受取額	30
利息の支払額	-40
法人税等の支払額	-250
営業活動によるキャッシュフロー	600
II. 投資活動によるキャッシュフロー	
有形固定資産の取得による支出	-400
長期貸付金の回収による収入	100
投資活動によるキャッシュフロー	-300
III. 財務活動によるキャッシュフロー	
長期借入れの返済による支出	-100
株式の発行による収入	400
配当金の支払額	-250
財務活動によるキャッシュフロー	50
IV. 現金及び現金同等物の増加額	250
V. 現金及び現金同等物の期首残高	690
VI. 現金及び現金同等物の期末残高	940

要素ごとに
直接CF計算

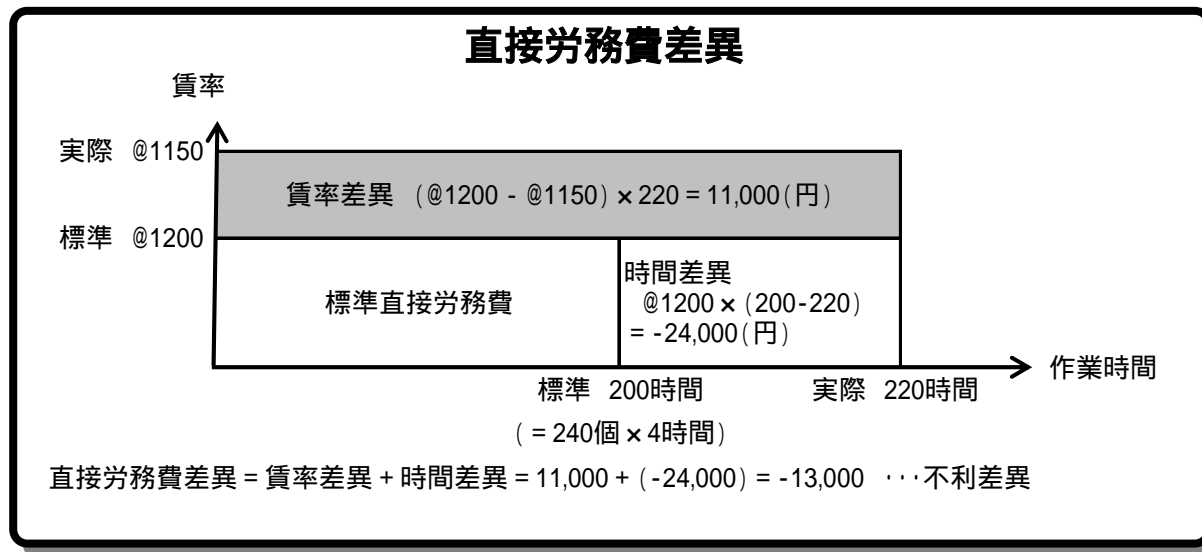
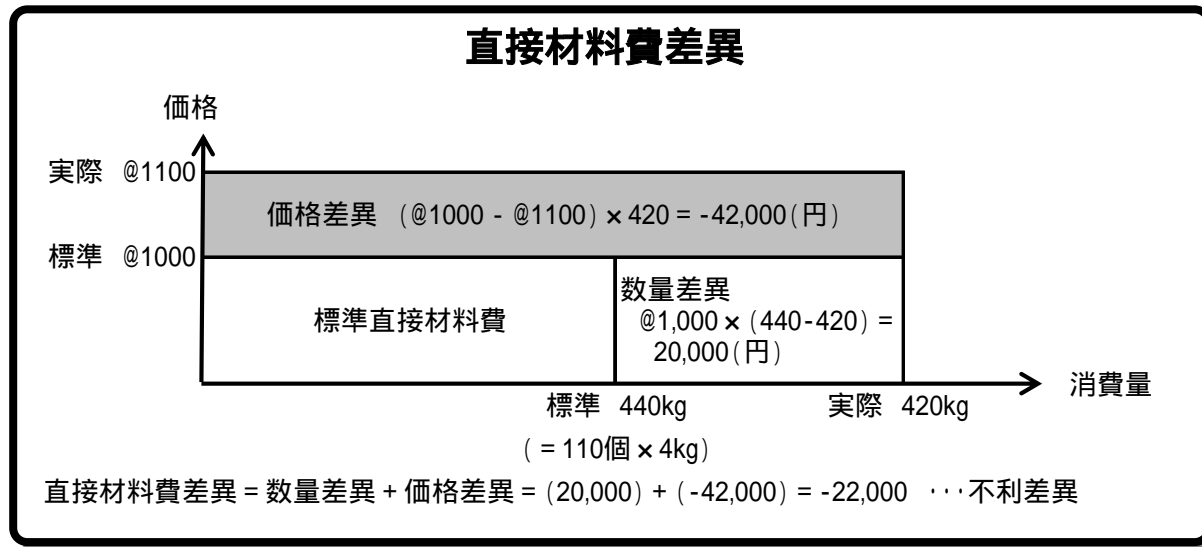
原価計算 ~ 原価の流れ



総合原価計算 ~ ボックス図で数量と費用を整理

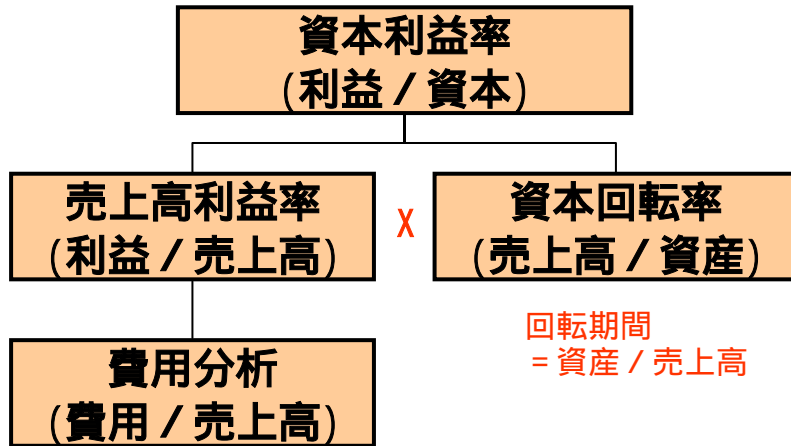


標準原価計算 ~ 原価差異は図で計算

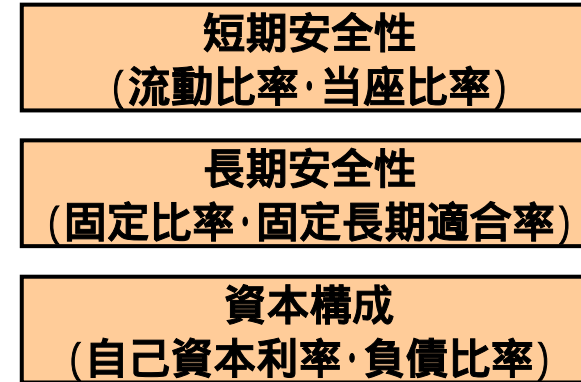


経営分析 ~ 経営指標の体系

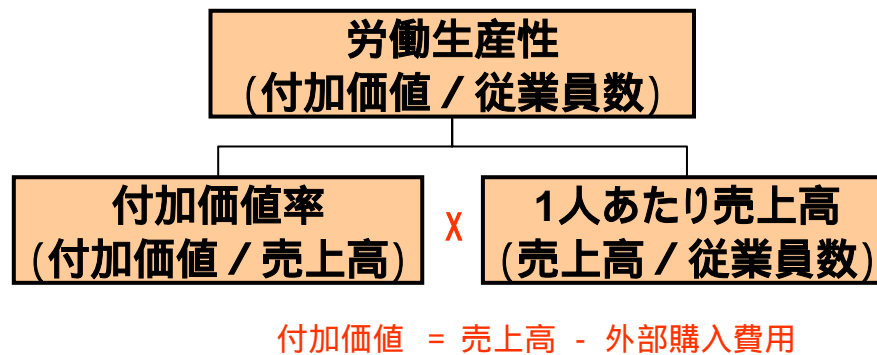
収益性分析



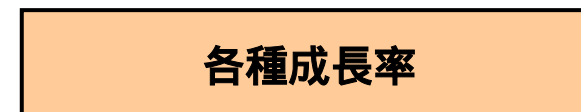
安全性分析



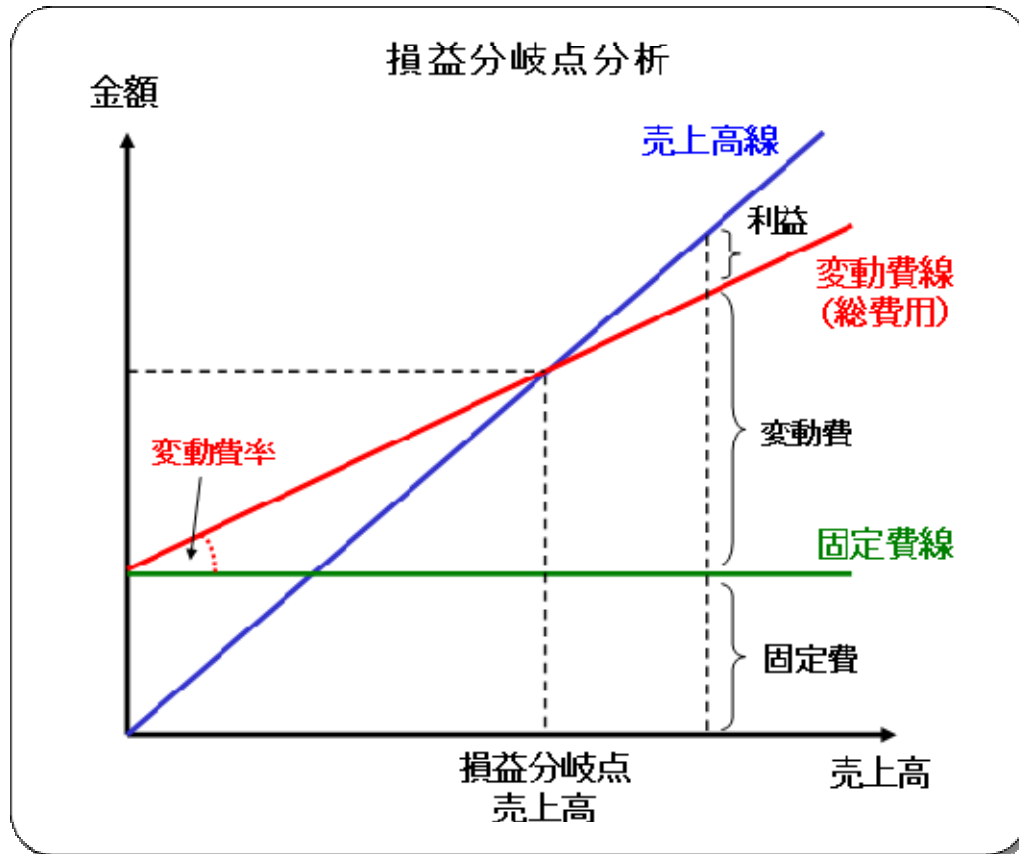
生産性分析



成長性分析



損益分岐点分析 ~ 損益が0になる点



$$\text{利益} = \text{売上高} - (\text{変動費率} \times \text{売上高}) - \text{固定費}$$

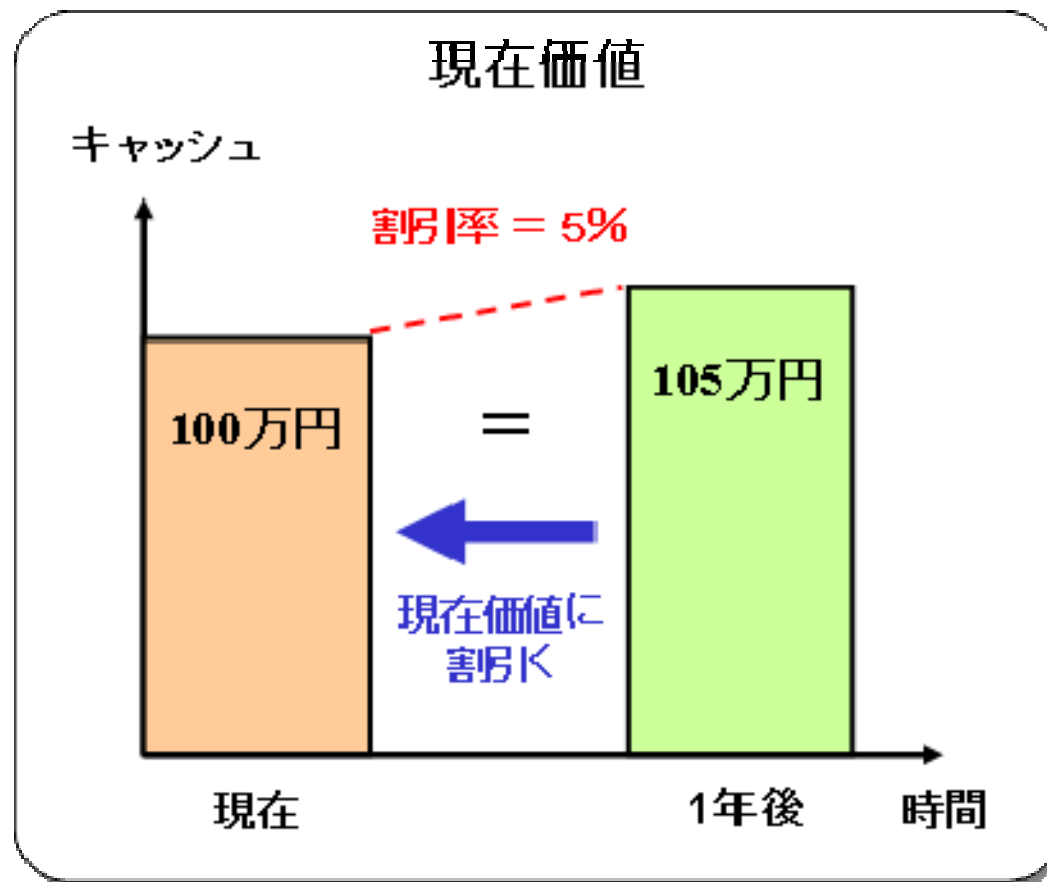
↓ 変形

$$\text{売上高} = (\text{固定費} + \text{利益}) / (1 - \text{変動費率})$$

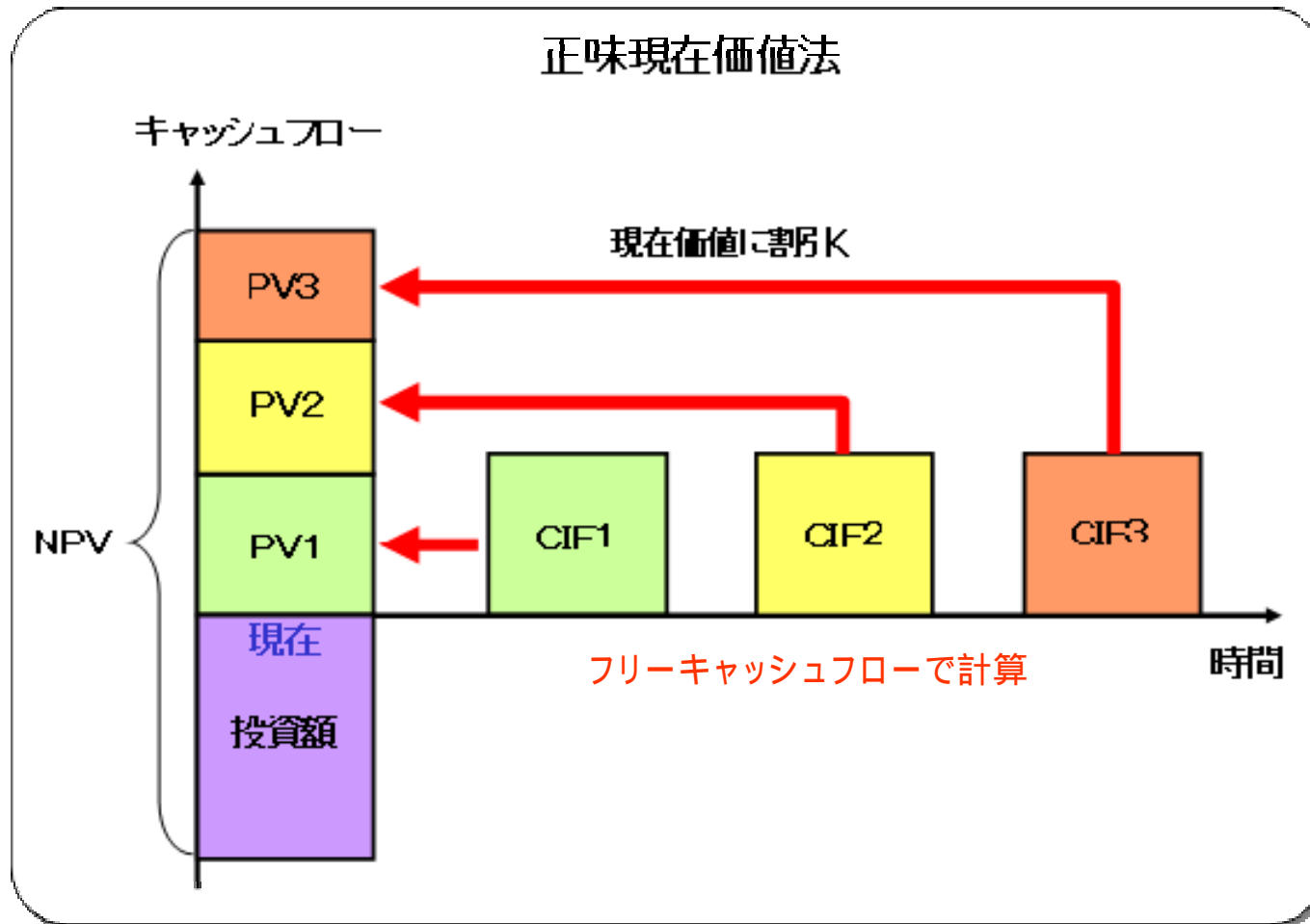
↓ 利益 = 0 のとき

$$\text{損益分岐点売上高} = \text{固定費} / (1 - \text{変動費率})$$

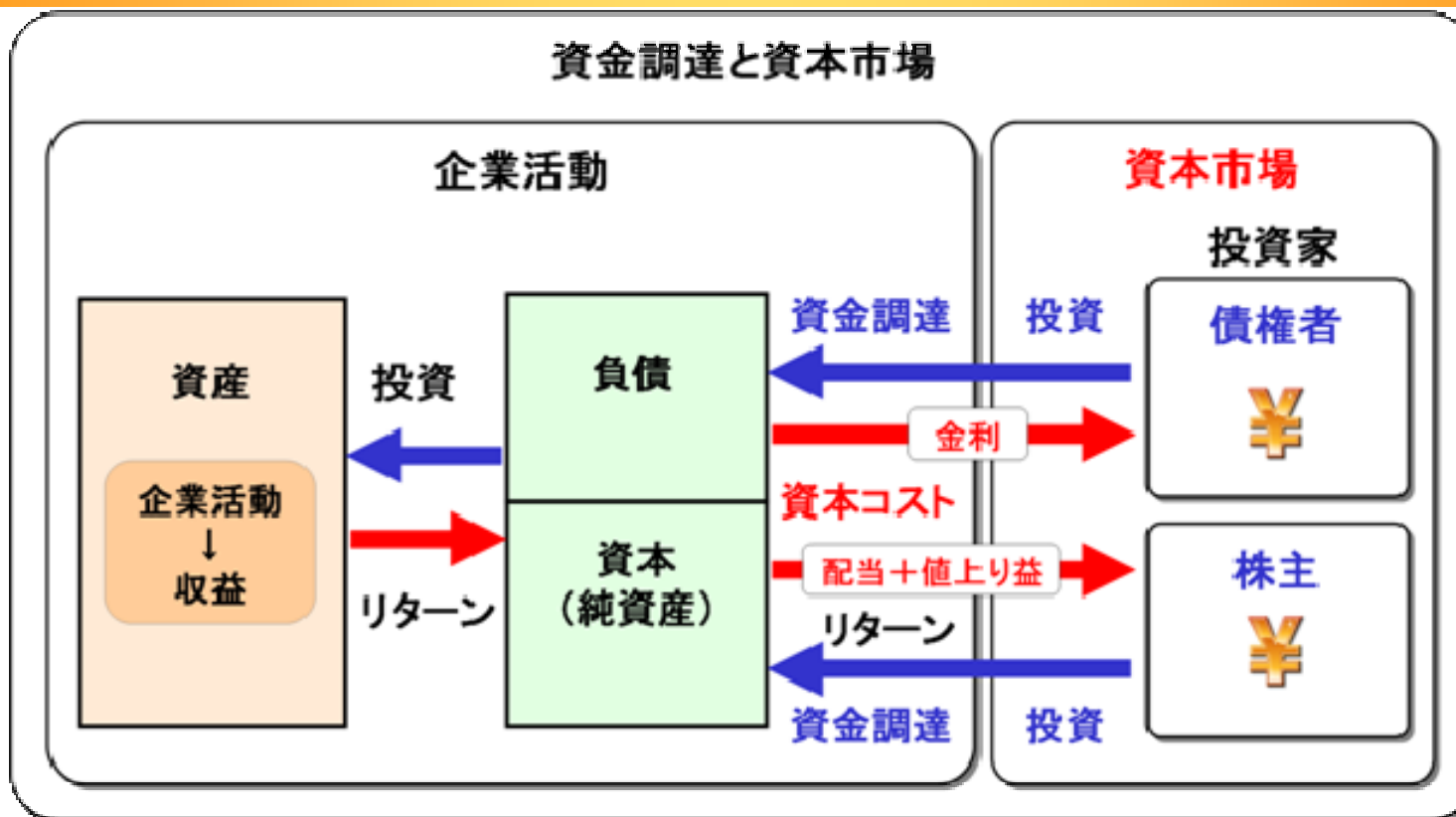
現在価値 ~ 資金の時間的価値



正味現在価値法 ~ 現在価値による投資評価



資金調達 ~ 資本コストは投資家の期待収益



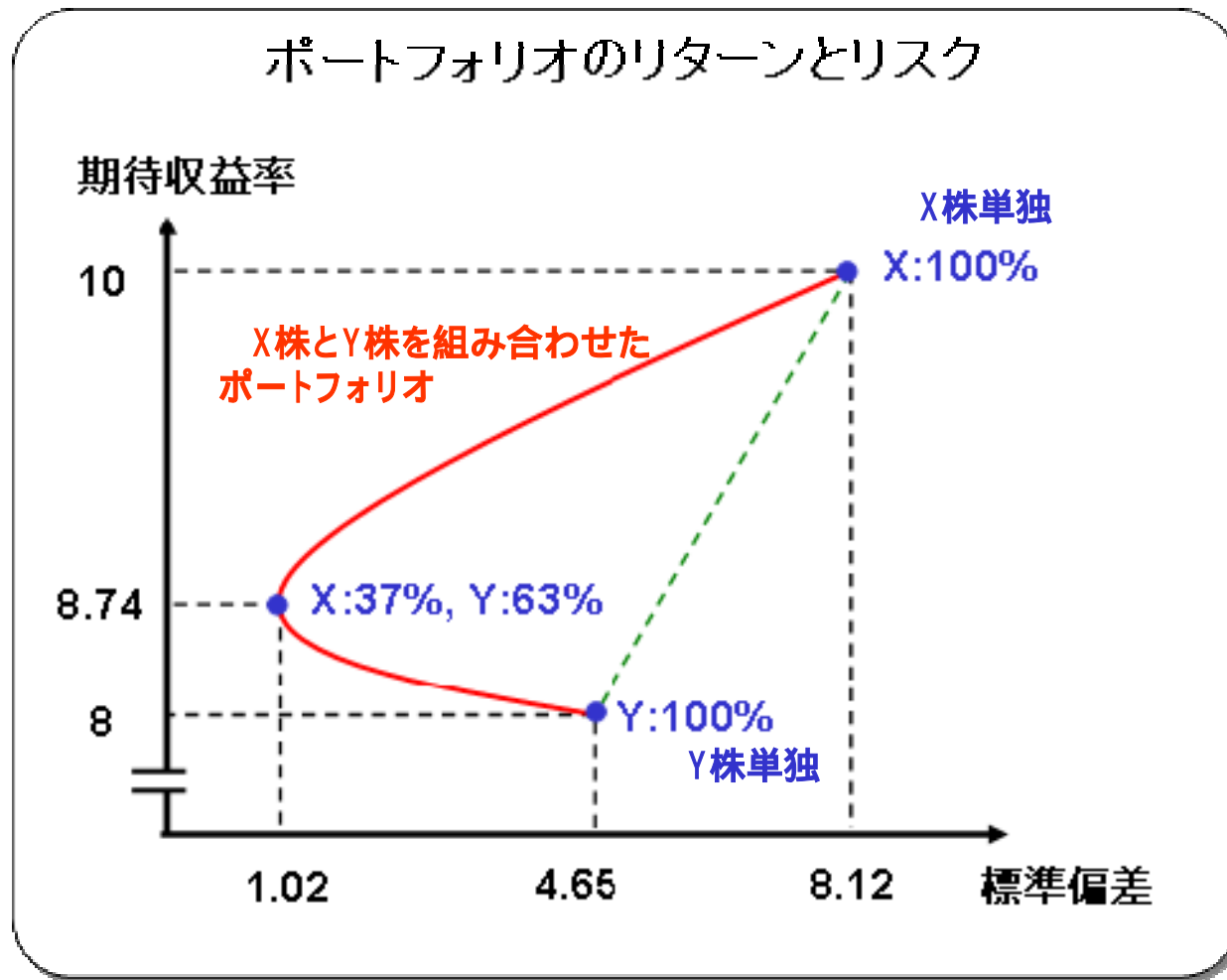
資本コストは、負債と資本の調達コストを加重平均したもの

$$WACC = \frac{\text{負債}}{\text{負債} + \text{資本}} \times (1 - \text{実効税率}) \times \text{負債利子率} + \frac{\text{資本}}{\text{負債} + \text{資本}} \times \text{CAPM}$$

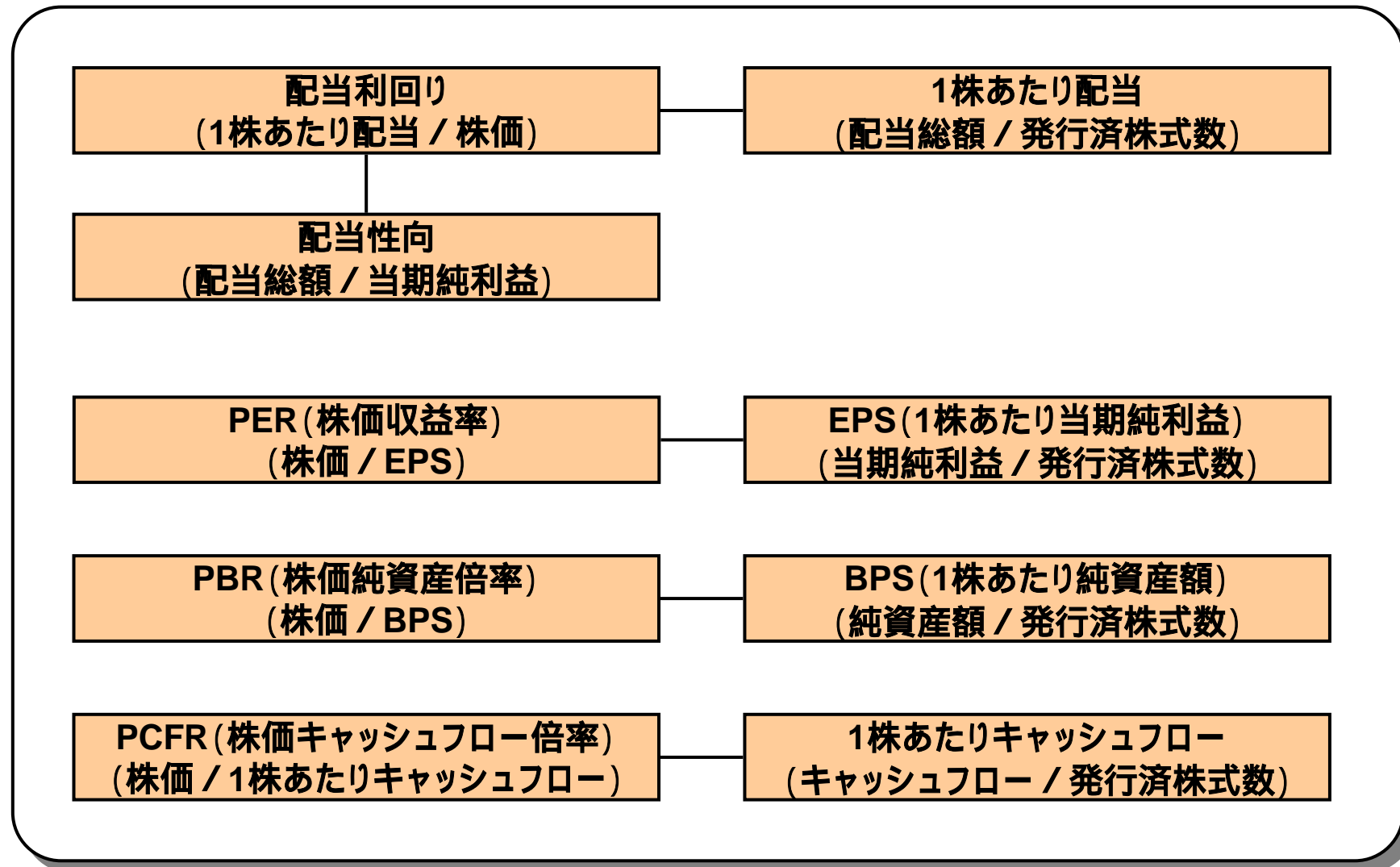
$$\text{CAPM} = \text{リスクフリーレート} + \beta \times \text{市場リスクプレミアム}$$

※ 市場リスクプレミアム = 市場ポートフォリオの期待収益率 - リスクフリーレート

ポートフォリオ ~ 組み合わせでリスク低減



株価の評価 ~ 株式関連の指標



4 . プレゼントのご案内

プレゼントのご案内

1 . 初回通勤講座「1 - 1 企業経営の全体像」

- 2次試験でも重要な経営戦略論の初回の講座です。企業活動の仕組みや、経営理念・ビジョン・経営戦略・経営計画などの企業活動の概要を学習します。

- 講座に含まれるもの

音声講座【標準版：32分、2倍速版：16分】

解説 + 確認テスト（記憶フラッシュ）付き

学習マップ

学習ガイド

2 . 「中小企業診断士 加速合格法」

- 具体的な学習法や学習ツール、試験対策の方法をわかりやすく解説しています。

3 . 過去問解説メルマガ「合格EXPRESS」

- 上記をダウンロード頂いた方に、過去問をわかりやすく解説したメールマガジン「合格EXPRESS」を毎週配信しています。

以下のページからダウンロードできます。

<http://manabiz.jp/sample.html>

「中小企業診断士 通勤講座」のご案内

通勤講座

<http://manabiz.jp>

通勤講座ダイジェスト

<http://manabiz.seesaa.net>

ありがとうございました

